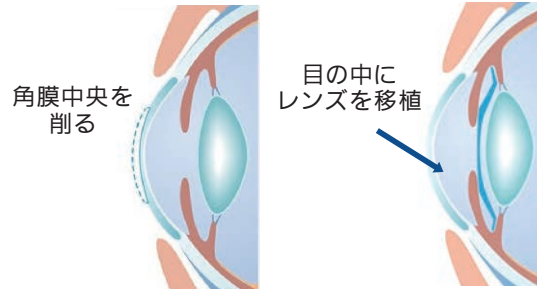


【レーシック】 【ICL 眼内コンタクトレンズ】



ICL手術は角膜を削ることなくレンズで矯正するため、クリアで質の良い長期的に安定した見え方になります

【ICL (眼内コンタクトレンズ)手術】

眼内にレンズを移植し近視を治す方法。レンズを取り出せば手術前の状態に戻すことも可能。毎日のケアも不要です。

手術の適応について

*21歳～45歳の近視の人がもっともよい適応です
*「45歳～55歳では老眼鏡の必要性をご理解いただける方にのみ手術しています」

適応検査

現在、同院では適応検査は無料で行なっています

近視治療『ICL手術』への質問 「再び視力低下することは?」「手術のリスクや危険性は?」

白内障手術・ICL手術専門 眼科こがクリニック 眼科こがクリニック 検索

眼科こがクリニック 古賀 貴久 院長

【プロフィール】 1995年、熊本大学医学部卒業。同大学眼科研修医を経て、武蔵野赤十字病院眼科(東京都)に国内留学。熊本大学大学院卒業後、医学博士号取得、熊本大学眼科講師。イリノイ大学シカゴ校留学を経て2009年、「眼科こがクリニック」を開院



- ・これまで2000眼以上のICL手術の実績※2016年～2024年
- ・クリニックにはICL手術を受けた職員が多数勤務

手術の安全性を高める取り組み

- 手術は九州で唯一のICLのエキスパートインストラクターの資格を持つ院長が執刀
- 経験豊富な医師とスタッフがチームとなり、術前検査・カウンセリングを行なうので、安心して任せられます



手術への不安を軽減する 「低濃度笑気麻酔」

ICL手術は目薬の麻酔でまったく問題ありませんが、手術に対する不安感の強い人のために、同院ではリラックス効果と痛みを和らげる効果のある「低濃度笑気麻酔」を導入。歯科では、こどもの治療などで以前から使用されている方法です。手術中にマスクの脇から酸素と笑気を混合した気体を流します。笑気ガスを止めると、すぐに麻酔効果はなくなり、歩いて帰宅できます。



長期安定性に優れた近視治療法

コンタクトでもレーシックでもない、画期的な近視治療として注目される「ICL手術」。安全性の高さでも満足度の高い治療法ですが、「術後に再び視力が低下するのでは?」と不安を持つ人もいます。

正しいICL手術の知識 vol.05

【読者からの質問①】
手術しても、再び視力が低下することはありますか? 手術のリスクも知りたい。
(中央区・30歳女性)



格を持つ、古賀院長に詳しくお話を伺いました。
再び近視にならないような生活を

「角膜を削るレーシック手術では角膜の創傷治療の過程で近視のものがあることが知られていますが、ICL手術は長期的に視力が安定していることが報告されています」と院長。

手術のリスクや危険性は?

「手術である以上、リスクはゼロではありませんが、ICL手術は非常に安全性の高い治療法です。気を付けなければいけないのは、傷口から細菌感染する術後眼内炎という合併症ですが、IC

視が進む人がいるのとこと。「術後は長時間近くを見続けるようにし、30分に1回程度は目を休め、再び近視にならないように注意して頂けたらと思います。」

「手術である以上、リスクはゼロではありませんが、ICL手術は非常に安全性の高い治療法です。気を付けなければいけないのは、傷口から細菌感染する術後眼内炎という合併症ですが、IC

同院では随時、無料相談を受付中。まずは「見える生活」のために一歩踏み出してみませんか?

白内障手術・ICL手術専門
眼科こがクリニック
☎096 (377) 1701



ネット予約はこちら

LINEで「ICL相談室」

ICL手術について聞いてみたいことは、なんでも無料で質問・相談できます

受付時間	月	火	水	木	金	土
8:30～11:00	外来	外来	外来	外来	外来/手術	外来
13:30～16:30	外来/手術	外来/手術	外来/手術	外来/手術	休	休



【完全予約制】 休診/日曜・祝日 住所/中央区八王寺町40-5